

努力の成果 全道へ挑戦

片岡 博さんの出陳牛、最高位賞を受賞

7月21日、安平町の北海道ホルスタイン共進会場で開催された日胆畜産共進会黒毛和種の部（ホクレン主催）において、片岡 博さんの出陳牛、のりこ号（父 勝早桜5、母の父 安福久）が7部で1席、経産牛の中で最高位賞に輝きました。

日胆畜産共進会黒毛和種の部は全部で10部門あり、未経産部門が5部門、経産部門が2部門、同じ父牛の子の部門、同じ母牛の子の部門、農協及び改良組合の部門が各1部門あります。未経産、経産の部門においては月齢で分けられており、今回ののりこ号は第7部（平成30年9月10日以前生まれ、48ヶ月齢以上）に出場し、見事1位となりました。また今回出陳されている経産牛の中でも最高位を受賞しました。

主に牛の調教を行っているのは長男の圭太さんです。圭太さんは今年の3月に酪農学園大学を卒業し、実家に帰ってきました。学生時代から大学が休みの際は実家の手伝いや、大学近郊の農家さんへアルバイトにも行っていたとのこと、牛の扱いにはとても慣れています。

牛の調教は軽種馬用のウォーキングマシンを使って引き運動を行い、その後姿勢よく立つ練習を行い、ブラシをかけてあげます。農協職員、生産連職員の協力のもと、牧草時期の忙しい合間を縫って3日調教し1日休ませるといって日程で調教を行ってきました。



なお、圭太さんは牛になるべくストレスを掛けないように、サシバエやアブの少ない朝方に調教を行っております。牛舎内に畳を1枚敷いて、その上に牛を立たせる圭太さんは「このやりかたで正しいのか分からないですね。」「ある時は、「栄養度が高い（太っている）」と言われました。どうすればいいですかね。」「と初めての共進会挑戦にあたって試行錯誤を繰り返している姿が印象的でした。また、本牛に関して他の牛たちと別に飼っているため、発情を確認することが出来ません。そういった飼養管理での難しさも話していました。

今回の結果については圭太さんの頑張りにも答えてくれた結果だと思えます。次は9月9日から10日にかけて同会場で開催される北海道肉牛共進会に出陳予定となっておりますので、良い結果を期待しています。



のりこ号と片岡さんご家族です。
（左から圭太さん、博さん、祐美さんです。）

最高位賞を受賞しました。
本牛の調教を主に行っている圭太さんと当JAの坂本職員です。

審査の様子です。

